第9講

社会科学系(2)
戦争と平和

チャプター1

資料読解

生徒メモ欄

1　今日の日本人を表むき支配している道徳的な思想としては、戦争を悪とする考えがまず第一にあげられるだろう。これは当り前のことで、いまさら問題にするまでもないとも考えられる。しかしながら、この思想は見かけほど単純ではない。戦争が悪であるというのは、病気や貧乏、失敗、あるいは死が悪であると言われるのと、ほぼ同じであろう。苦痛や苦労、悲惨、損失と喪失、破壊など、われわれが不幸と呼ぶところのものが、それに結びついて考えられるからである。

［中略］

2　しかしながら、戦争が害悪であり、不幸であるということと、戦争について加害者と被害者を区別し、罪を定めることは、まったく別のことである。戦争が不幸であり、悪であるということは、比較的単純なことであると言える。そしてその不幸をもたらすものとして、戦争を罪悪とすることも、また比較的単純だと言えるかもしれない。しかしこの二つの考え、この二つの言い方はすでに同じではない。前者は戦争を直接その悲惨と破壊、損失と苦痛のままに捉えているわけであるが、後者は戦争をそのような不幸をもたらす原因として、因果に分けて考えているからである。

3　ところが、このように戦争を、それがもたらす不幸や悪から区別して考えることが可能になると、戦争と悪という、この二つのものの間に、また別の関係を考える可能性も出てくるわけである。つまり戦争の結果が、いつも必ず悪でなければならないかどうかということも疑問になりうるわけだ。つまり戦争にも他の面があるということである。具体的に

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

言えば、勝利者にとっては、戦争は栄光であり、利得であるという一面があるとも考えられるだろう。また部分的には、戦争は堂々たる行進や勇敢な行為、あるいは敵陣をおとしいれて、勝どきをあげるよろこびなどとともに、思い浮かべられることもあるだろう。戦争が損失と悲惨と苦痛のみであるというのは、正確な考えではないかもしれない。

［中略］

④ 戦争は勝利者に栄光と利得をもたらし、一般参加者にもおもしろい体験をさせる一面があるにしても、それは他の多くの人びとに悲しみと不幸をもたらし、多数の人を殺し、また傷つけるのであるから、断じて容認することはできないと、怒りをこめてわたしたちは答えることになるだろう。われわれのこの感情から言えば、戦争がこれらの不幸を含み、これらの不幸の原因となるかぎり、他にどのような面があろうとも、これを罪悪として告発しなければならないのである。

⑤ そしてこれはなにがなんでもという形の絶対主張なのであるから、もうこれ以上は議論の余地がないということになりそうである。しかしながら、もしわれわれがこれらの問題について、単なる感情論を固執するのではなくて、もっとよく考えられた思想をもちたいというのであれば、戦争を告発し断罪するこの主張を、われわれは思想法廷にうつして、そこで反対の弁論とも対質させなければならないだろう。

［中略］

⑥ 若干の現象を指摘すると、例えば、ベトナム――あるいは他のどこかでもいいのであるが、そこ――に「平和を！」というようなことを言いさえすれば、他にどんな悪事をはたらいていても、わたしたちはだれでもひとかどの道徳家になれるし、なにか高尚な気持ちになることもできるのであって、それは念仏をとなえることが、あらゆる罪からわれわれを救うのにも似ていると言えるかもしれない。しかもわれわれの場合は、自分自身の罪の意識におののくというようなことは無用なのであって、ただ他を告発し、断罪すればいいのだから、なんとも気楽な話だと言わなければならない。しかしただ怒りをこめて、他を非難すれば、だれでも道徳的に高揚された気分になることができるというのは、いったいどういう道徳なのであろうか。

⑦ 多くの場合、道徳は自分だけのアリバイ証明と自己弁護、そしてただ他を非難するための手段として利用される

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

にすぎないのである。そしてもっとも多く他を断罪する者が、最大の道徳家ということになりかねないのである。逆に法廷弁論の派手な演出によって、悪徳弁護士にすぎないような者が、正義を代表するかのように見られることもあるだろう。たしかに、道徳と法律とは大部分において重なるところがあると言わなければならない。しかしすべての道徳論が法廷弁論に還元されてしまうものではないだろう。わたしたちの道徳意識は、このような狭さから解放され、このような低さを脱しなければならない。わが国の政治論も、多くは法廷弁論の域を脱しないものばかりであるが、われわれは機会あるごとに、その考え不足を指摘し批判して、政治論や道徳論の本来性を回復するよう努力しなければならないのではないか。

[中略]

8 ヘロドトスの『歴史』に、アテナイがイオニアの叛乱を助けるために二十隻の船を派遣したということが記されているが、それについて、「しかしこれらの船がギリシア人にとっても、またペルシア方の人たちにとっても、もろもろの不幸（悪）のはじめとなったのである」という短い言葉がつけ加えられている。[中略]ペルシア戦争へと発展し、ギリシアとペルシアの両方に多数の死傷者を出すことになったのである。[中略]しかしこれによってヘロドトスは、ペルシア戦争を罪悪であるとして否定したわけではない。もし否定していたのなら、この戦争で「ギリシア人やギリシア人以外の人たちによって行われた驚異すべき大事業が、その栄光を失ってしまうことのないように」これを書き留めておくという、かれの『歴史』も書かれえなかったはずである。

[中略]

9 「もしアテナイ人が迫り来る危険に恐れをなして、自分の国をすてて逃げ出すか、あるいはすて去らずに、自国にとどまるにしても、ペルシア王クセルクセスに降参するとしたら、海上においてペルシア王に敵対しようとする国は一つもなかったろう。[中略]しかし現実には、アテナイがギリシアを救ったのであると言っても、真相を間違えたことにはならないだろう。なぜなら、事態はかれらアテナイ人の向背によって、どちらへでも傾く形勢になっていたからである。しかしかれらはギリシアが自由の国として残るほうを選んだのであり、まだペルシアの勢力下に入っていない残余のギリシア人すべてを奮起させ、神明の加護によって、ペルシア王を撃退したのは、まさにかれらだったのである。」

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

［中略］

⑩　トロイア戦争にしてもペルシア戦争にしても、戦争は不幸なことであり、悪である。これを避けるためには、アテナイは水と土をペルシア王に献じて、すぐに降参すればよかったかも知れない。しかしかれらはギリシアの自由を死守することを選んだのである。それはかれらの罪であろうか。戦争は悪であり、不幸である。これはかれらの認識でもあった。しかしかれらは侵略者と戦い、自由のために戦うことを不正であり、罪であるとは信じなかったであろう。むしろその戦争を正義であると信じたであろう。つまり戦争において、善悪の区別と正邪の区別とは一致せず、むしろ分裂しなければならないのである。

［中略］

⑪　われわれは、戦争が悪であるというところから出発した。それは病気や貧困が悪と言われる意味において悪なのである。しかし戦争が悪であるということは、それだけでは道徳や倫理の問題とはならないのである。われわれが苦を避けて、快を求めるように、われわれは戦争をきらう。これは自然の傾向である。しかしそれが直ちに正邪の問題になるわけではない。わたしたちは戦後の「あまったれ民主主義」のなかで、戦争はいやだ、戦争に巻き込まれたくないというような悲鳴をあげれば、それが正義の叫びとなり、誰もがわれわれを救うために馳せつけて来なければならないと、簡単に考えてしまう傾向にある。

⑫　しかし正邪を空名にすぎないとする立場の人たちは、われわれの悲鳴を聞いても、これを全く無視するか、あるいは意地悪くこれをからかって、そのなかへ原子爆弾でも投げこみたくなる誘惑にかられるかも知れない。われわれが無事でいるのは、かれらがそういう気まぐれを起こさないためか、あるいはもっと別の計算や深慮遠謀があるためか、あるいはひょっとして正邪の考えが独立の拘束力をもっているためであろうと考えなければならなくなる。そしてこの最後の場合において、はじめて道徳が意味をもってくる。それは正邪を空名とのみ考える一元説の立場がゆらいだ結果なのである。しかしその道徳は、かれらの意識、かれらの思考のうちにあることであって、悲鳴をあげるわれわれが道徳の立場にあることを意味するものではない。それは乳を求めて泣く赤児が、たまたま侵入して来た強盗を道徳の世界に引き入れるにしても、赤児自身が道徳的行為をしているのではないというのと同じであろう。われわれは

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

戦争を罪悪とし、平和を主張しようと思うなら、われわれ自身がはっきりとした正邪の意識をもち、まず自分自身を道徳の立場におかなければならない。

⑬　しかしながら、すでに見られたように、われわれの道徳論は他を非難し、他に罪をなすりつけるためのもの、法廷弁論の手段たるにとどまるのであって、それ以上は道徳について何も知ろうとは思わないものなのである。それは肝心の自分自身を抜きにした道徳論なのである。そしてこのようなことが可能なのは、心の奥底において道徳は無であり、単なる美名であると信じられているからなのであろう。正義はただ利用されるためにある。［中略］正義を無視して、ただ利益だけを追求するというようなことがすぐに見破られてしまうような者は、きわめて幼稚な愚かしい悪漢である。不正の極は、むしろ正義の仮面の下に不正を行なうことであると、プラトンは規定した。正義とは戦いにおける最後の勝利にほかならないと信ずる者は、戦争のために平和を利用し、他人の正義を自己の不正のために利用するだろう。

［中略］

⑭　もう一度はじめに帰っていえば、戦争は悪であり、不幸なのである。それは病気や貧困が悪である意味において悪なのである。しかしもしそうだとすれば、病気や貧困と同じように処理する道があるわけである。という意味は、われわれは病気や貧困を罪悪や不正であるとして、法律論や道徳論をもち出すようなことは、今日もはやしていないのである。この不幸と悪を取りのぞくために、われわれは罪人を探すよりも、薬や治療法を求め、施設をととのえ経済政策を研究するだろう。戦争の不幸についても同じことで、それの原因となるものを研究し、これを防ぐための積極的な方策をたてなければならぬ。そうすると、法的秩序というようなものも、罪人をつくるための組織ではなくて、戦争を防ぐための規定となり、問題も法廷から行政、あるいは立法の場にうつされることになるだろう。

⑮　本来の政治というのは、司法よりも立法にあるわけで、これは平和で幸福な社会というようなものを目ざして、その必要条件を法的に規定し、法的秩序を築いていく仕事なのである。議会は、告発したり、裁判したりする場所ではなくて、建議し、立案し、提案する場所なのである。そしてそれが政治の本領なのである。そしてここにおいて、法というものは人間の幸福、社会の善に奉仕する地位を得、正義と善と

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

の結合が、法廷弁論とは逆の積極的な意味をもつことになるのではないか。われわれは政治が、このような政治の本来性を回復することに協力しなければならない。それが恐らく世界平和への最も有効な努力になるだろう。

田中美知太郎『直言、そして考察―今日の政治的関心』（講談社、昭和四六年）所収。試験問題として使用するために、文章を一部省略・変更している。本文の初出は、「道徳問題としての戦争と平和」（『中央公論』、昭和四一年一月号）である。著者は、「悪」の事例として、貧困と病気を比喩として提示している。今日の価値観からすれば付合しないという考えもあるだろうが、論旨の展開を生かす観点からも原文のままにしている。

（2022年度　慶應義塾大学　法学部）

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター2

問題およびヒント

問題を見てみよう

著者の議論を400字程度に要約した上で、著者の立論に連関して800字程度で考察を深めてください。なお、論述に際しては、論旨を補強するために、あるいは思考を深めるために的確と考えられる具体的事例への言及を行ってください。

解答案をつくってみよう

100

200

300

400

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(　　　　　字)

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案が完成したら、以下の表を用いて自己評価をしてみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見（主張）	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター3

答案例①

　筆者は戦争そのものが悪であるということ、戦争が破壊や苦痛をもたらすものであるために悪であるということとの悪の両極性を論じ、また戦勝国によっては栄光であり、部分的には勇敢な行為があるなど、悪だけでない面についても述べている。しかし、多くの人を殺傷し、悲しみと不幸をもたらす点において戦争は悪であり、戦争反対と主張することで人は道徳家になれるが、自己弁護と他者批判のために道徳を利用するのではなく、政治論や道徳論の本来性を回復する努力が必要だと主張する。筆者は侵略者との戦いや自由のための戦いを例に挙げて戦争において善悪の区別と正邪の区別は一致せず必ず分離すると述べ、法廷弁論的、道徳的に戦争を解決することの困難を説く。そこで司法ではなく立法という本来の政治の立場に立ち返り、貧困に対して経済政策を行うように、戦争を防ぐために方策を立てることが政治の努めであり、世界平和への最も有効な努力だと述べている。

　道徳論が解決策を見出せない問題の中で、最も身近で代表的なものがいじめであると言えるだろう。いじめもまた戦争と同じように、誰もが良くないことだと評価しながらもなくなることなく起きている。評価だけでなく、善悪や正邪の区別が一致しないことにおいてもいじめと戦争は類似している。いじめる側にもいじめられる側にもそれぞれに大義名分と自己正当化できる理由がある。複数の人間が集まる場では、それぞれの人間関係の中で

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

気が合う合わないという差異が生じることは避けられないことである。したがって、いじめは良くないことだから仲良くしようという道徳論や精神論だけでは解決しにくい。しかし、そのことをいじめという行為に発展させずに済ませるためにはどうしたら良いのだろうか。1つの方法として、固定的な人間集団を作らないという案はどうだろうか。例えば、学校であれば1組や2組というクラスごとの授業ではなく、数学の授業と英語の授業で構成員が変わるようにする。閉鎖的な空間がなくなることのほか、集団が流動的になることによってそれぞれがより多面的な個性を発揮できるかもしれない。また、習熟度別や進学先別のクラス編成が可能になるように、副次的な効果も生じやすくなると考えられるだろう。

(922字)

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例①を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

観点	項目	評価
設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見（主張）	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター4

答案例②

　病気や貧困などが悪であるというのと同様の意味で戦争は悪であり、不幸である。しかしこのことと、戦争について加害者と被害者を区別し罪を定めるということは別である。勝利者にとって戦争は利得や栄光となり、一概に悪とするには疑問がある。ペルシア戦争においても、戦争は悪という認識はあったが、多数の死傷者を出す結果となっても自由のために侵略者と戦うということは彼らにとっては正義であった。以上のことから戦争においては善悪の区別と正邪の区別は分離して考えねばならない。戦争を害悪とし、世界平和を為すに必要なのは相手を非難するだけになりがちな道徳論や法律論ではない。病気や貧困の解決に薬や治療法、経済政策を研究するように、戦争に関してもその原因を研究し、戦争を起こさせないことが必要である。平和を目指すという目的のもとで法を規定し法的秩序を築き、政治を通し正義と善の結合を為すことがその実現に最も有効である、と筆者は述べている。

　戦争に関しては勝利者や敗者、また何を賭けての戦争なのかでもその立場により善悪は異なり、正邪も異なる。戦争が正当化されることもある。その立場によって異なる正義と、善と呼ばれるものを近づけるためには正しい立法が不可欠であると考える。ロシアのウクライナ侵攻について考えてみると、両国とも自国を守るために戦争しており、各々の立場で、犠牲を伴いながらも正義と信じて戦いを

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

続けている。ウクライナがNATOに加盟していた場合、集団的自衛権を行使し、ロシアからの攻撃を受けることもなかったであろう。しかしロシアから見てウクライナの加盟は自国にとって脅威となるため、それを防ぐためにも武力行使に出たのだと考える。条約によって他の国の脅威から守られていることが分かるように、今後の戦争を防ぐためには国際法の充実と立法が必要であると考える。自らの立場を正当化する戦争の当事者間では、利害が一致することが少ない。この為他国を含めたEUや国際連合などの国際機関、あるいは当事国が信頼を置く第三国が関与することが必要となるだろう。自国を守る、他の国を脅かさないという共通の正義を全うするためには国際社会での法的秩序を構築することが急務である。

(926字)

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例②を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことを元に、さらにブラッシュアップするための
おすすめの書籍情報を知り、その書籍の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。